

## ムジセッカ *Phylloscopus fuscatus* の福井県初記録

高木 慎介

The first record of Dusky Warblers *Phylloscopus fuscatus* in Fukui Prefecture.

Shinsuke TAKAGI

(要旨) 2020年10月25日に坂井市三国町にて、福井県初記録となるムジセッカ2個体を観察した。本種は数少ない旅鳥または冬鳥として各地に渡来し、日本海側の島嶼で記録が多いことから、今後も福井県内で記録される可能性が高い。

キーワード：ムジセッカ，福井県初記録，坂井市三国町， 渡り

ムジセッカ *Phylloscopus fuscatus* は、スズメ目ムシクイ科に属し、モンゴル、ヒマラヤ東部、中国中部、西シベリア及び東シベリア南部からオホーツク海沿岸、サハリンで繁殖し、冬季はインド北東部、ネパール、アンダマン諸島、インドシナ、中国南部、台湾に渡る。日本には数少ない旅鳥または冬鳥として北海道・本州・九州に飛来し、日本海の離島では春秋の渡りの時期によく記録され、八重山諸島では毎年越冬する（五百澤ほか，2014）。北陸地方においては新潟県、石川県で記録はあるものの、福井県での記録はない（日本鳥学会，2012）。今回、筆者は坂井市三国町において2020年10月25日にムジセッカ2個体を観察したことから、ここに報告する。

### 観察日時

個体A：2020年10月25日10時頃及び14時頃

個体B：2020年10月25日11時20分頃

### 観察場所

個体A：福井県坂井市三国町雄島の北側遊歩道

個体B：福井県坂井市三国町休暇村越前三国北側の二の浜海岸のセイタカアワダチソウ群落

### 観察された行動

個体Aは雄島の北側遊歩道上でハエ類などの昆虫を捕食し、危険を感じると遊歩道脇のササ藪に身を隠した。観察中、「タッ」や「チャッ」と聞こえる舌打ちのような乾いた鳴き声を連続でよく発した。

個体Bはセイタカアワダチソウ群落の中に潜み、姿を現すことはほとんどなかったが、個体A同様「タッ」や「チャッ」と聞こえる舌打ちのような乾いた鳴き声を連続でよく発した。

### 種を同定した根拠

個体A、Bともに、その外見からムシクイ科の鳥と考えられた（図1，2）。ムシクイ科の鳥のうち、個体A、Bのように羽色の大部分が褐色で、明瞭な長い眉斑と明瞭な過眼線を持ち、翼帯がなく、跗蹠の色が黒色ではない種はムジセッカ、カラフトムジセッカ *P. schwarzi*、モウコムジセッカ *P. armandii*、キバラムシクイ *P. affinis*、Sulphur-bellied Warbler *P. griseolus* が該当する（Baker, 1997；Demongin, 2016；Billerman *et al.*, 2022）。これらのうち、キバラムシクイ及びSulphur-bellied Warblerは顔から腹が黄色いことから、個体A及びBの特徴と異なる（Baker, 1997；Billerman *et al.*, 2022）。モウコムジセッカは腮から腹にかけての下面にレモンイエローの細い縦斑があり、個体A及びBよりも眉斑が太く長く、目先ではっきりしない点が異なる（Baker, 1997；Brazil, 2009；Billerman *et al.*, 2022）。カラフトムジセッカは眉斑がより太く長く、目先ではっきりせず、嘴はより太く、跗蹠もより太い（Baker, 1997；Brazil, 2009；五百澤ほか，2014；真木ほか，2014；Demongin, 2016；Billerman *et al.*, 2022）。ムジセッカは顔から下面にかけて黄色い部分がなく、明瞭な比較的細く長い眉斑を持ち、眉斑は目先ではっきりしており、嘴は細く尖り、跗蹠も細い点が個体A及びBと一致する（Baker, 1997；Brazil, 2009；五百澤ほか，2014；真木ほか，2014；Demongin, 2016；Billerman *et al.*, 2022）。

個体A及びBの鳴き声については、前述の検討種のうちムジセッカと一致した（Brazil, 2009；真木ほか，2014；Billerman *et al.*, 2022）。しかし、Baker (1997) ではモウコムジセッカはホオジロ類に似た鳴き声を出すが、ムジセッカと同様の鳴き声も発するとの記述がある。

ムシクイ科の鳥ではないが、国内においてはウグイス *Cettia diphone* もムジセッカに類似しており、当初ムジセッカとして記録されたものが再検討の結果ウグイスの可能性が高いとされた例も存在する（小田谷, 2016）。ウグイスは個体A及びBよりも尾がより長く、嘴が大きく、眉斑は目立たず、過眼線がより目立たない点で異なる（Brazil, 2009）。また、ウグイスの鳴き声は「ジャッ」と擦れた音質に聞こえ、個体A及び個体Bの鳴き声とは異なる。

以上の検討結果から、個体A及び個体Bをムジセッカと同定した。

2020年10月25日の坂井市三国町では、ムジセッカ以外にもベニヒワ *Carduelis flammea* 約10羽、シベリアアオジ *Emberiza spodocephala spodocephala* 2羽、コジュリン *E. yessoensis* 1羽が観察された。同所では前日11時から24時に西寄りの風（最大瞬間風速5.1～15.3m）が吹いており（<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> 参照日2023年4月5日）、大陸からの渡り鳥が渡来しやすい状況だったことが推測される。

本記録より以前に福井県ではムジセッカの観察記録はない（日本鳥学会, 2012）。しかし、日本海の離島では春秋の渡り時期によく記録されていることから（五百澤ほか, 2014）、日本海に面する福井県でも定期

的に渡来している可能性が示唆される。今後の福井県内での本種の確認事例の増加に期待したい。

本稿では鳥類各種・亜種の和名・学名については国内から記録のあるものについては日本鳥学会（2012）に従い、国内未記録種・亜種については Billerman *et al.*（2022）の英名・学名を用いた。

#### 引用文献

- Baker K, 1997, Warblers of Europe, Asia and North Africa. Christopher Helm, 400p.
- Billerman SM, Keeney BK, Rodewald PG, and Schulenberg TS (eds), 2022, Birds of the World. Cornell Laboratory of Ornithology. <https://birdsoftheworld.org/bow/home>. 参照日2023年4月5日.
- Brazil M, 2009, Birds of East Asia. Princeton University Press, 528p.
- Demongin L, 2016, Identification Guide to Birds in the Hand. Beauregard-Vendon, 392p.
- 五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014, ネイチャーガイド 新訂 日本の鳥550 山野の鳥. 文一総合出版, 415p.
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸, 2014, 決定版 日本の野鳥650. 平凡社, 788p.
- 日本鳥学会, 2012, 日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会, 438p.
- 小田谷嘉弥, 2016, 手賀沼におけるムジセッカの記録（田中 2004）の再検討. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告, 22(3), 1-3.



図1. 2020年10月25日に福井県坂井市三国町雄島で観察されたムジセッカ（個体A）



図2. 2020年10月25日に福井県坂井市三国町二の浜海岸で観察されたムジセッカ（個体B）